

1月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和6年1月末現在〕

令和6年2月13日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、全て改善した。

業種別でみると、製造業、非製造業ともに「景況」は改善し、「売上高」は、製造業では悪化した。非製造業では改善した。「収益状況」は、製造業では改善したが、非製造業では不変であった。

「収益状況」は全体で改善したものの、引き続きエネルギーや原材料等の価格高騰が続く、上昇分を十分に価格転嫁できず、収益確保が厳しいという報告が見られた。

景況DI

製造業は、前月比7.7ポイント改善の▲15.4ポイント、非製造業は、前月比12.5ポイント改善の▲8.3ポイント、全体では、前月比10.0ポイント改善の▲12.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比3.8ポイント悪化の▲26.9ポイント、非製造業は、前月比16.7ポイント改善の0.0ポイント、全体では、前月比6.0ポイント改善の▲14.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比3.8ポイント改善の▲30.8ポイント、非製造業は、前月比変化なしの▲20.8ポイント、全体では、前月比2.0ポイント改善の▲26.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	学校給食パン	学校給食における米飯給食の増加により、パン給食の回数が毎年減少している。少子化による量の減少もある。
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県12月の清酒課税移出数量は、前年同月比93.7%であった。本格焼酎についても、同96.5%であった。主力の清酒は忘年会で期待したが4月より9か月連続の対前年割れであった。コロナ禍であった昨年(2023年)の12月より下落していることは危機的状況と捉えている。 ○県内当業界について 12月の清酒課税移出数量の実績を分析すると高級酒の吟醸酒が前年同月比99.4%、純米酒99.8%、本醸造酒108.6%に対して全体の40%を占める普通酒が前年同月比84.6%と大きく落ちている。したがって、高級酒の特定名称酒を主力に醸造している蔵元は前年同月比100%を超えている。酒造りの経営戦略の違いにより蔵元間の格差の拡大につながっているもの。普通酒の落ち込みは、忘年会の内容が変わってきていることも影響している。 以前のように大人数で大きな宴会場にてお銚子で注文することが減り、少人数で自分好みの酒を各自注文する傾向となり、グラス注文で美味しい高級酒が売れている。普通酒の爛酒を好む高齢の愛飲家が健康の理由から酒を止めていることも考えられる。また、個人消費が活発な首都圏への販売酒は高級酒中心となっていることも要因と考えられる。
	納豆	土産品としての納豆の売上高は、年始の帰省シーズンでは前年同月比で同程度であり、なかなかコロナ禍前の水準への復調には程遠い感がある。期待されていた売上高に及ばない分、在庫数量は増加する傾向にあり、それが操業度の低下につながっている。また量販店向けは大きな変化は見られない。但し、コロナ融資の返済に伴う資金繰りの悪化は引き続き懸念される。
	菓子	昨年12月より、商品の値段を10%値上げした。販売数量が伸びず、全体として売上高はやや増加にとどまっている。
	漬物	繁忙期が過ぎ、1月はあまり動きがなかった。3月頃から春の棚割り等があるため、その頃には動きが出てくると思われる。食品衛生法が改正(令和3年6月1日施行)され、3年間の経過措置期間が今年5月31日で期限を迎えるため、組合員企業は、自社の書類等を整備し、それぞれに対応していかなければならない。
繊維工業	県北地区外衣シャツ	前月同様、受注量が減少傾向にある。新年度までの見通しが不透明である。人員の確保に苦慮している。
木材・木材製品	製材	・国産材製品は需要不足の影響で荷動きが悪い。製品価格は横ばいで推移した。 ・外材については、強保合で推移した。 ・原木については、杉・桧ともにさらに値を下げた。
	県北地区プレカット	月間加工坪数は目標の40%を達成。2月の加工予定は初旬から中旬に集中している。木材価格は下がると予想される。
	県央地区プレカット	1月の加工状況は、昨年から予想はしていたが、想定よりも大幅な落ち込みとなった。見積物件も依然として少ない。来月以降も厳しい状況は続くと思われる。
紙・紙加工品	段ボール	中小企業は、売上高が前年より5~15%ダウンし、大手企業は、1~5%ダウンした。令和4年10月から前年割れが続いており、未だに景気の回復はみえない。取引先で1週間の稼働が4日というところも出てきている。
印刷	総合印刷	各印刷会社は、資材関係等の値上がりによるコストの上昇、WEB媒体等の進歩による印刷物需要の減少により収益、資金繰りの悪化が続いている。それを打開するひとつとして「デジタル化の進展に舵を切り、新たな価値を印刷物に生み出していく」と言われているが、資金の問題、後継者の問題を抱える中小零細印刷業界にとっては、そう容易なことではない。
窯業・土石製品	コンクリート製品	茨城県土木部が公表している土木工事等建設資材単価表が令和6年1月1日付で改定となり、11月と比較して、歩車道境界ブロックLE、LBが約10%、長尺U字溝用グレーチングが約18%、盗難防止金具が約10%アップした。
	陶磁器	売上高は低調であった。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製 造 業	鉄鋼・金属	鉄鋼	1月の受注量、設備の操業度、売上高は前年と同程度であった。業界全般の景況は、取引先の各業界とも前年並みであったが、建設機械関係は比較的忙しかった。すべての金属材料・貴金属等が高値で推移し、工業薬品も高値である。ガソリン・灯油等の石油製品や電力の価格も高値で推移している。
	一般機器	生産用機械	対象7組合員(製造会社)の売上高は前年同月比で5社増加、2社減少であった。団地全体の売上高は、主要取引先からの受注量が増加したことを主要因として前年同月比で増収となった。組合員の従業員は、正社員数は変わらないが派遣社員数の減少により前年同月比で減少となった。
	輸送用機器	県北地区自動車部品	業界全体としては好転の判断であるが、前月同様、組合員間でのばらつきが気になるところである。
非 製 造 業	卸売業	生鮮魚介	精算所取引高は前年同月比103.09%。前月同様、取引高は前年同月比で多少上回っているが、荷動き自体は減少している。人の流れは、コロナ禍前に戻りつつあるため、外食産業等は伸びているところもあるが、仕入単価の上昇の影響により、卸業者を含め販売業者等は厳しい状況である。
		袋セメント	袋セメントの令和6年1月出荷数量は、34千袋、前年同月比103.7%の実績。前月は、値上げ直後の反動で前年同月比72.8%まで出荷数量が落ち込んだが、1月は、県南県西地域の圏央道に絡む周辺工事が引続き旺盛で、前月比+7.5千袋、128.8%と回復に転じた。
	小売業	県北地区共同店舗	売上高は前月同月比101.5%、客数は同101.2%、前年同月の売上高を確保できた店舗は30.7%となった。成人式需要の店舗の売上高が増加した結果であり、厳しい状況に変わりはない。
		県央地区共同店舗	館全体の既存店の売上高(客数)は、前年同月比96%(95%)であった。気温が下がり始めたため、冬物用品等の売上高が増加した。飲食店では頻繁に値上げをしており、客単価は上がっているが、客数の減少が顕著にみられる。 主要業種の売上高(客数)：食品94%(96%)、飲食101%(93%)、ファッション114%(111%)
		県南地区共同店舗	・館全体では、売上高は前年同月比99%、売上単価は同110%、客数は96%であった。 ・衣料品店舗が不振であった。 ・組合員店舗は人手不足のため、週1回又は月2回の休業を実施している。
		家電	暖冬のため冬物商品の販売に影響が出た。さらに人材不足、諸物価の高騰と経営は向かい風である。2月に仕切り直したい。
		燃料	国の燃料油価格激変緩和策により燃料油価格は抑えられているものの、レギュラーガソリンの価格は170円/Lを超えており、前年同月比で約10円高くなっている。仕入れ値は少しずつ下がっているが、それ以上に下げってしまう県外の大手企業、広域に事業を行っている業者等があり、地元の中小企業は追従を迫られ疲弊してきている。人件費、電気代その他のコストアップの中で、採算が取れる経営は難しい状況である。
		中古自動車	1月は販売台数が前年同月比118.5%、販売価格が同103.6%と共に前年度を上回り、売上高は122.8%と大きく増加した。長引く物価高や燃料の高騰で中古車市場は厳しい状況が続いているが、一部の新車メーカーによる製造停止等の影響を受けて、新車の代わりに中古車を選択する消費者が増えている可能性がある。2月以降の販売実績を注視しながら情勢を見守る必要がある。
		食料品	青果、精肉、一般食品、菓子の主力部門売上高の前年割れが要因となり、12月の売上高は前年同月比99%であった。上述した部門は、販売点数を大きく落としてしまっている。来店客数は前年比100%と前年を維持している。 今後は売価の見直し、売場整理・変更等の対策を行っていく。
	商店街	野菜・果実	1月は野菜果実合計で前年同月比90.8%の取扱高となった。暖冬の影響により出荷が前進している品目も多く、潤沢な出回りとなり、価格が低下した。多くの品目が安値で推移した。果実に関しては、リンゴやイチゴの出回りが鈍く、やや単価高で推移している。
		水戸	引き続き、人手不足、原材料高騰や水道光熱費の上昇が続いている。
		筑西	新型コロナウイルス感染症が第5類に移行後、初の1月シーズンを迎えたが、売上高は、コロナ禍前の50%位であった。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非製造業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)の前年同月比は、普通車はほぼ横ばいであったが、軽自動車は当月を含め、数か月にわたり微増ながらも伸びがみられる。
	旅館、ホテル	茨城デスティネーションキャンペーンや体験王国いばらき割(いば旅)は終了したが、地域のイベントやインクルーシブ体験の付加価値等の浸透により集客が増えている。なお、集客地域については、県内及び関東地域が多くを占め、台湾や香港等の東南アジアからのインバウンドが堅調な地域もある。一方、いば旅の終了や能登半島地震の影響を受けたイベントの中止等により、例年より客足が少なくなった地域もある。また、業界の景況は好転しているものの、人材の確保や人件費の増加、食材費や光熱費の高騰により収益が圧迫され、経営状況は厳しい状況にある。
	総合	工事発注の平準化のために年度繰越工事の入札が積極的に行われている。現在工事残を多くもつ各企業も次年度工事の確保のため積極的に入札に参加している。ただし現在の手持ちが余剰でも参加するためダンピングによる受注は解消されない。
	東北地区管工事	今年の春季生活闘争では労働者、使用者とも大幅賃上げ妥協するような流れであるが、中・小規模の管工事業者は収益が良くなく、必ずしも賃上げできる状態にない。賃上げ出来なければ、社員のモチベーションの低下を招き、離職・転職につながらないかが懸念される。
運輸業	軽貨物自動車	当月の組合員数は104名、車輛台数は133台で前月と比較して増減なしであった。また、運送売上高については、前年同月比90.4%であった。全国連合会での当月の組合員数は6,258名、車輛台数7,450台で前月と比較して20名減少、24台減少であった。
	一般貨物自動車	主要顧客の発送物量は、年明けに少し減少したが、輸送運賃の値上げにより、売上高はほぼ横ばいで推移した。燃料価格についても、高値ほぼ横ばいで推移しており、収益は厳しい状況が継続している。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食回数増要望
	納豆	コロナ禍以降、経営に悪影響を及ぼすような様々な問題が次々に発生し、遂には元旦に能登半島地震まで起こるに至っては、天災とは言え将来的な不安が大きい。その中において政府も積極的な被災地支援策を繰り出すことは当然期待されることであるが、それ以外の問題、例えば消費拡大や原材料価格や資金繰り問題等に対する支援策も期待したい。
小売業	燃料	揮発油税に課税している二重課税の廃止 燃料油価格激変緩和策の継続と出口戦略の明確化 物価上昇、円高への対応
建設業	総合	工事発注の平準化が進めばダンピングも少なくなると予測していたがうまくいかないようである。対策をお願いしたい。また、工事関係書類の簡素化は工事では進んでいるが市の発注工事は進んでいない、対策をお願いしたい。

月次景況調査 1月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	1月	12月	前月比	1月	12月	前月比	1月	12月	前月比
景 況	▲ 12.0	▲ 22.0	10.0	▲ 15.4	▲ 23.1	7.7	▲ 8.3	▲ 20.8	12.5
売 上 高	▲ 14.0	▲ 20.0	6.0	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 3.8	0.0	▲ 16.7	16.7
収 益 状 況	▲ 26.0	▲ 28.0	2.0	▲ 30.8	▲ 34.6	3.8	▲ 20.8	▲ 20.8	0.0
販 売 価 格	28.0	32.0	▲ 4.0	11.5	11.5	0.0	45.8	54.2	▲ 8.4
取 引 条 件	▲ 12.0	▲ 14.0	2.0	▲ 11.5	▲ 15.4	3.9	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0

中小企業月次景況調査(令和6年1月)DI値(前年同月比)

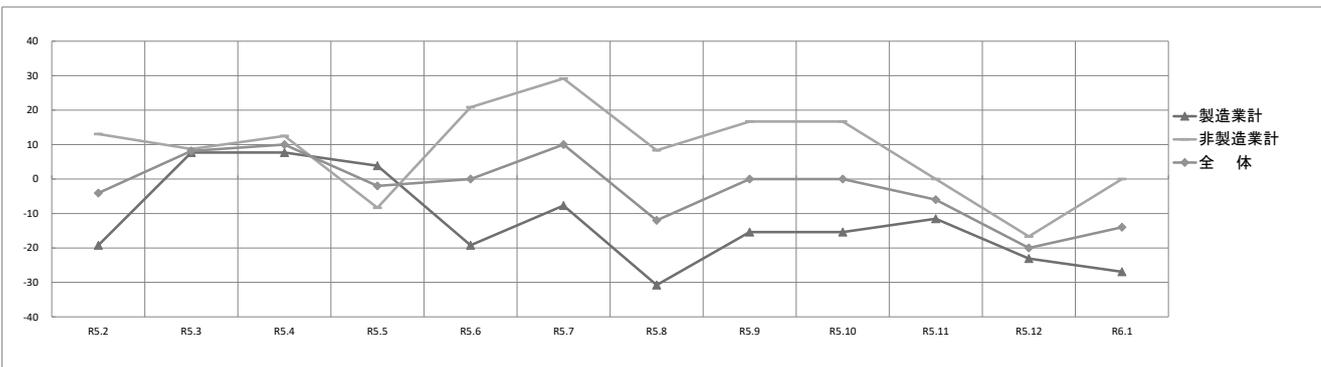
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)			DI	(内 訳)																
		増加	不変	減少		業界数	増加	不変		減少	業界数	上昇		不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化		業界数	好転	不変		悪化	業界数	上昇		不変	悪化	業界数	増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数						
製造業	食料品	△ 16.7	1	3	2	6	0.0	1	4	1	6	33.3	2	4	0	6	0.0	0	6	0	6	0.0	0	6	0	6	△ 33.3	0	4	2	6	0.0	1	4	1	6	△ 16.7	0	5	1	6	△ 16.7	0	5	1	6
	繊維工業	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3
	木材・木製品	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	紙・紙加工品	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	化学・ゴム	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	窯業・土石製品	△ 60.0	0	2	3	5	0.0	0	5	0	5	60.0	3	2	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 60.0	0	2	3	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	1	2	2	5
	鉄鋼・金属	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1
	電気機器	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	1	1	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	1	1	1	3
製造業計	△ 26.9	3	13	10	26	△ 7.7	2	20	4	26	11.5	5	19	2	26	△ 11.5	0	23	3	26	△ 30.8	0	18	8	26	△ 19.2	0	21	5	26	△ 11.5	2	19	5	26	△ 11.5	0	23	3	26	△ 15.4	2	18	6	26	
非製造業	卸売業	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	66.7	2	1	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3					0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	
	小売業 (商店街含む)	△ 25.0	2	5	5	12	0.0	0	12	0	12	50.0	7	4	1	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 25.0	1	7	4	12	△ 25.0	0	9	3	12					△ 33.3	0	8	4	12	△ 8.3	2	7	3	12	
	サービス業	50.0	1	1	0	2						50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2					0.0	1	0	1	2	0.0	1	0	1	2	
	建設業	40.0	2	3	0	5						20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5					0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	
	運輸業	△ 50.0	0	1	1	2						50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2					0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	
	非製造業計	0.0	6	12	6	24	0.0	0	15	0	15	45.8	12	11	1	24	△ 12.5	0	21	3	24	△ 20.8	1	17	6	24	△ 12.5	0	21	3	24					△ 16.7	1	18	5	24	△ 8.3	4	14	6	24	
全体	△ 14.0	9	25	16	50	△ 4.9	2	35	4	41	28.0	17	30	3	50	△ 12.0	0	44	6	50	△ 26.0	1	35	14	50	△ 16.0	0	42	8	50	△ 11.5	2	19	5	26	△ 14.0	1	41	8	50	△ 12.0	6	32	12	50	

D I 値推移表 (R5.1月 ~ R5.12月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1
食料品製造業	▲ 33.3	33.3	33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	33.3	16.7	▲ 16.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 15.0	0.0	0.0	15.0	▲ 5.0	▲ 5.0	▲ 30.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 30.0
製造業計	▲ 19.2	7.7	7.7	3.8	▲ 19.2	▲ 7.7	▲ 30.8	▲ 15.4	▲ 15.4	▲ 11.5	▲ 23.1	▲ 26.9
卸売業	0.0	0.0	▲ 66.7	0.0	66.7	66.7	66.7	0.0	33.3	33.3	▲ 66.7	33.3
小売業(商店街含む)	0.0	9.1	16.7	▲ 25.0	8.3	16.7	16.7	33.3	0.0	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 25.0
サービス業	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
建設業	20.0	0.0	40.0	0.0	40.0	20.0	▲ 40.0	40.0	40.0	▲ 20.0	0.0	40.0
運輸業	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0
非製造業計	13.0	8.7	12.5	▲ 8.3	20.8	29.2	8.3	16.7	16.7	0.0	▲ 16.7	0.0
全体	▲ 4.1	8.2	10.0	▲ 2.0	0.0	10.0	▲ 12.0	0.0	0.0	▲ 6.0	▲ 20.0	▲ 14.0

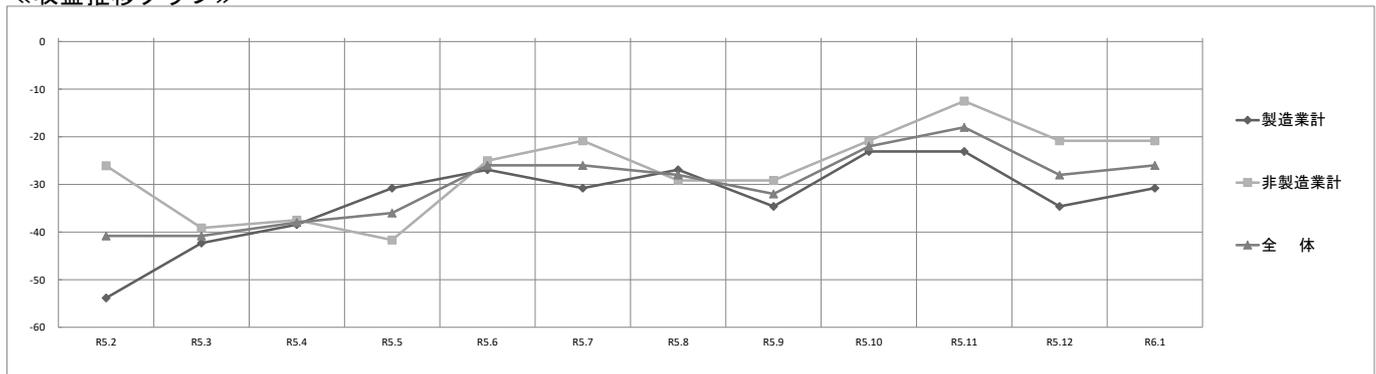
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3	0.0	▲ 16.7	▲ 16.7	16.7	33.3	0.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 45.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 55.0	▲ 40.0
製造業計	▲ 53.8	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 30.8
卸売業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0	▲ 66.7	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0
サービス業	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	0.0	▲ 50.0
建設業	20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 26.1	▲ 39.1	▲ 37.5	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 20.8	▲ 20.8
全体	▲ 40.8	▲ 40.8	▲ 38.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 26.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 22.0	▲ 18.0	▲ 28.0	▲ 26.0

《収益推移グラフ》

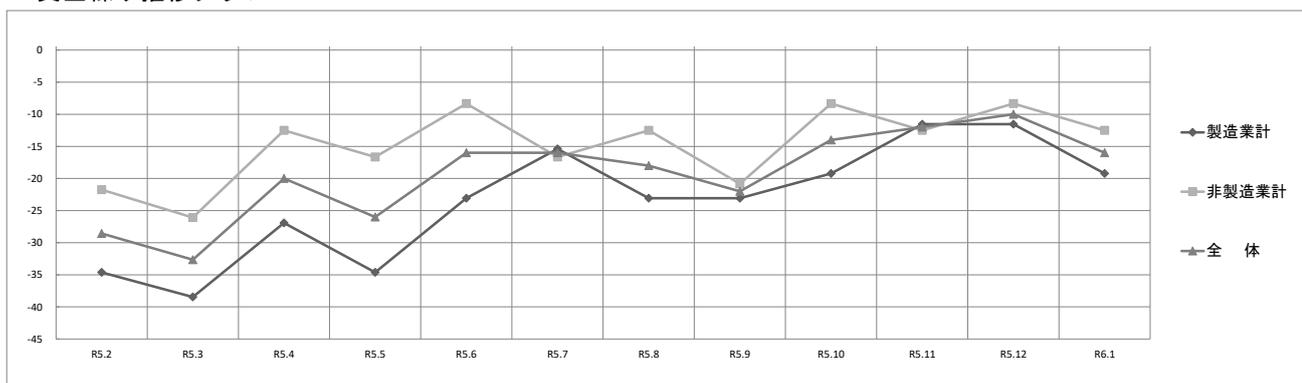


D I 値推移表 (R5.1月 ~ R5.12月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0	0.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 15.0
製造業計	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 26.9	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 11.5	▲ 11.5	▲ 19.2
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 36.4	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 25.0
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	▲ 100.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 21.7	▲ 26.1	▲ 12.5	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 12.5	▲ 8.3	▲ 12.5
全体	▲ 28.6	▲ 32.7	▲ 20.0	▲ 26.0	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 18.0	▲ 22.0	▲ 14.0	▲ 12.0	▲ 10.0	▲ 16.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1
食料品製造業	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 66.7	0.0	16.7	▲ 16.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 35.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 35.0	▲ 15.0
製造業計	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 15.4	▲ 23.1	▲ 15.4
卸売業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 66.7	0.0	0.0	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 18.2	0.0	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 25.0	8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 8.3
サービス業	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0
非製造業計	▲ 26.1	▲ 17.4	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 12.5	4.2	▲ 20.8	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 20.8	▲ 8.3
全体	▲ 24.5	▲ 24.5	▲ 22.0	▲ 18.0	▲ 24.0	▲ 18.0	▲ 30.0	▲ 22.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 22.0	▲ 12.0

《景況推移グラフ》

